

サービス見直しと 収益向上策

京都党
江村りさ

提案ダイジェスト

■手当山盛り。職員厚遇にメス！



「運転しなくても車両手当が貰えるの？」
など驚きの手当が幾つも存在。他都市や国家公務員とも照らし合わせ、過剰な手当の解消に努めてまいりました。



■宿泊税実現！観光客にも負担を。



民泊やバスの混雑など観光客増加に伴う問題が顕在化していることから、観光客から一定の負担を頂き観光整備をする観光税（宿泊税）の導入を提案。日本初の宿泊料に応じた段階的課税を京都党が提案し、2年の時を経て実現しました。40億円の新たな財源が生まれています。

現場主義をモットーに

サービス拡充へ！

■民泊対策の強化へ

違法民泊には徹底した対応を京都党から求め、見回りを行う部隊は倍増へ。加えて、市民からの民泊通報相談窓口も体制を強化し、アドバイザー派遣も決まりました。

■災害時、シニア層・障害者の安心避難

東日本大震災では犠牲者の過半数は65歳以上で、障害者の犠牲者は健常者の2倍とされています。避難所対策に向けては、備蓄品の充実、緊急時の教室解放など様々な方面で充実を求めたほか、スムーズな避難のために避難名簿の活用幅拡大を提案しました。

■タクシーがわり？救急車見直すべし

年間何十回もの119。タクシー代わりに使おうとするような利用者もいます。救急車は一回出動すると3万円のコストが掛かります。海外では救急車は有料が基本です。特に不適正な利用が見られる利用者には、有料化にすることを京都党から提案しています。



■生活保護の現物一括購入決定



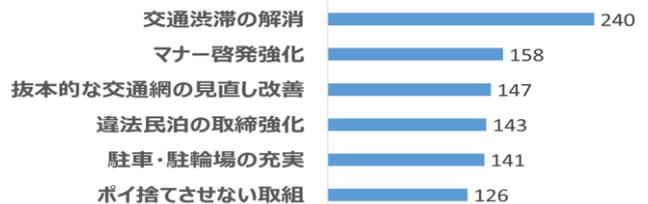
生活保護者の布団購入代は18000円が支給されますが、役所が一括購入して現物支給すれば経費削減と質の向上が可能と提案し、翌年から実施されました。さらに品目を増やす方向です。



■バスの混雑対策

観光客増により「市バスに乗れない」とのお声も聞かれる中、京都党のアンケート結果をもとに京都市に混雑緩和の交通政策を要望。ビッグデータを活用した交通流動実態調査も始まりました。

Q.京都市に求める観光政策は何ですか？



■市民しんぶん配布は業者に。

市民しんぶんの配布は市政協力委員さんをお願いしていますが、高齢化と町内会の衰退で、「配布やめたい」との声が続出しています。配布は、府民新聞と同じように業者に委託を提案しています。結果として配布コストの軽減も見込まれます。